

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570201048		
法人名	社会福祉法人報酬会		
事業所名	グループホーム庄内ひかり		
所在地	宮崎県都城市庄内町8122-1 (電話) 0986-37-3777		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成22年1月15日	評価確定日	平成22年2月24日

## 【情報提供票より】 (平成21年12月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年4月16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤12人, 非常勤6人, 常勤換算4.95人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造コロニアル葺 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	(有) (100,000円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) ( ) 円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年12月15日現在)

利用者人数	27名	男性 3名	女性 24名
要介護1	6	要介護2	2
要介護3	12	要介護4	4
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 86.7歳	最低 76歳	最高 96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	庄内医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から少し入りこみ、田園風景が眺められる静かな環境の中にホームは立地し、広々とした敷地内に3ユニットの落ち着きを感じる平屋造りのホームがある。毎月、各ユニットごとに計画を立て、家族の協力を得て遠出のドライブや花見を楽しんでいる。開設して7年が経過し利用者の高齢化が進み、人員体制の課題もあってかなり厳しい状況にあるが、利用者が地域の中で安心して暮らし続けることが出来るよう、管理者を中心に笑顔とやさしさを大切にした心のこもったケアが実践されている。利用者は職員の温かいケアに支えられ、表情も明るく元気に暮らしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である家族等意見の反映については、介護相談員の受け入れで外部者への意見を表せる機会づくりに努めている。また、職員の研修も職員会議で日々の体験に基づいた勉強会を行う等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者を中心に評価の意義や目的を話し合い、評価を生かした具体的な改善に全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域の代表、市の担当者、家族の代表者等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や災害時の対応等について具体的な話し合いを行いサービスの向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時にできるだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、介護相談員を受け入れ、外部者への意見を表せる機会づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人々から気軽に立ち寄ってもらい、日常的なつき合いが出来るよう地域住民に働きかけを行っている。また、小中学校のボランティアを受け入れ、地域の祭りにはおみこしに立ち寄ってもらう等、徐々にではあるが交流を深めている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体としての理念はあるが、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念がない。	○	地域密着型サービスの意義や役割について職員全員で話し合い、全員が共有できる事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや職員会議で、理念について全員で話し合い共有している。また、笑顔とやさしさを大切にされたケアが実践されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々から気軽に立ち寄ってもらい、日常的なつき合いができるように地域住民に働きかけを行っている。また、小中学校のボランティアを受け入れ、地区の祭りの際はおみこしに立ち寄ってもらう等、徐々にではあるが交流を深めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価は、管理者を中心に評価の意義や目的を話し合い、評価を生かした具体的な改善に全員で取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の代表、市の担当者、家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や災害時の対応等について具体的な話し合いを行いサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が実施する研修会や会議には積極的に参加して協力している。また、運営上の課題等について気軽に相談できる関係を築いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ひかり便り」を定期的に発行しており、毎月送付する利用料金請求書に同封して、利用者の健康状態や暮らしぶりを手紙で詳しく報告している。また、金銭出納簿を作成して家族へ定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時にできるだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、介護相談員を受け入れ、外部者への意見を表せる機会づくりにも努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動が多い。また、利用者の重度化が進み職員一人ひとりの負担も重くなり、ゆとりを持ったケアが難しくなっている。	○	利用者、家族との信頼関係を築くためにはなじみの関係を保つことが重要である。職員の異動や離職を最小限に抑えるために、働きやすい職場の環境整備をする等、具体的な努力や工夫への取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は少ないが、毎月の職員会議で、日々の体験に基づいた勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会県南地区協議会に参加して、勉強会や情報交換を行いサービスの質の向上につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人・家族にホームを見学してもらい、徐々にホームの雰囲気になじめるよう家族と相談しながら支援している。また、職員が自宅や施設を訪問し、利用者の生活環境や家族の状況等の把握に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活の中で、共に喜び支えあう関係を大切にし、利用者から昔話や生活の知恵を学ぶ等、信頼関係を築く努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や表情、会話の中から希望や意向の把握に努めている。また、家族や関係者から情報を収集し活用している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向や希望を取り入れ、職員会議でケアのあり方について十分検討し、職員の気づきやアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行うとともに、介護計画は3か月に1回見直しを行っている。また、状態の変化がある場合は随時の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や状況に応じて、通院や外泊、外出等を柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力病院を掛かりつけ医としている。週に1回の往診と6か月に1回の定期健康診断を行っており、適切な医療を受けられる体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、職員間の話し合いは行っているが、関係者全体による方針の統一が出来ていない。	○	重度化や終末期に対する対応について話し合いを持ち、方針の統一を図るとともに、その方針をできるだけ早い時期に本人や家族に説明し、関係者全員で共有できる体制作りを望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の配慮をしている。また、研修会等で個人情報保護法を学び理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は余裕のない勤務体制にあるが、利用者の意向や体調に十分配慮しながら、できるだけ自由に自分のペースで楽しく過ごせるよう柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助の必要な利用者が増加しているが、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。後片づけを手伝っている利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	車いす利用者が多くなり、入浴支援に苦勞しており、現状は週2回～3回の入浴を行っている。また、希望に沿った入浴が出来るよう入浴設備の充実等を検討している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや畑仕事、カラオケ、ゲーム、あくまき作り等、利用者が日々楽しく過ごせるよう力量に応じて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月各ユニットごとに、家族の協力を得てドライブや花見等を行っているが、日常的な散歩や買物等の外出が少ない。	○	職員の人員体制で厳しい面があるが、利用者の気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として、短時間でも戸外に出かける取り組みを望みたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。見守りを重視し、鍵をかけないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災警報機や消火器の訓練は年2回実施しているが、消防署と連携した避難訓練が実施されていない。	○	職員は夜間帯の緊急時の対応に不安を感じており、消防署と連携して定期的に避難訓練を実施し、日ごろより地区の消防団や地域の人々の協力が得られるよう働きかけをしてほしい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量は毎日チェック表で管理している。また、法人の栄養士による栄養管理も行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は適度な広さで、畳のスペースには利用者がゆっくり過ごせるようにコタツが用意されている。また、壁には季節感を感じさせる飾りつけがされており、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビやタンス、写真、使い慣れた日用品等が持ち込まれ、利用者が安心して居心地よく生活できるよう工夫している。		

※  は、重点項目。